

平成29年上半期示現会熊本支部の活動

1月15日(日)

1) 示現会熊本支部総会

平成28年度(4月~12月)の事業結果報告、同会計報告、平成29年度(1月~12月)の事業計画、同予算などが提示され大筋了承された。熊本地震の影響で平成29年度は熊本展および支部公募展は中止となったため、研修に力を入れることとなった。また本年新たに二人の支部員が加わり、熊本支部は33名の世帯となった。

2) 本展出品作品研修会

小材支部長から支部員の本展出品作品に対し改善すべき点について種々の意見を頂いた。

1月27日(金) 支部長日展特選受賞祝賀会

小材支部長の日展特選受賞を祝い、熊本市内の某ホテルで熊本支部員だけの内内の祝賀会を行った。(祝賀会記念写真と熊日新聞平成28年12月9日の記事)



近況

日展特選「夢のよう」

洋画家 小材 啓治さん(68) = 山鹿市

2016.12.9



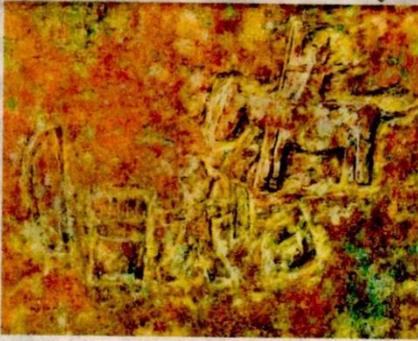
小材啓治さん

改組新第3回日展で、洋画部の特選に初めて選ばれた。2千点ほど寄せられた一般と会友の応募作品のうち、10人に与えられる最高賞。「夢のようで感激している」と率直に喜んだ。

受賞作の油彩「馬と兵士のいる古墳」は、本物の装飾古墳のような質感が目を引く。審査では「古代の人々が感じ描いたロマンを作者もまた表現した佳作」と評価された。

熊本城の城門などを描いてきたが、10数年前、「自分の里にこんな面白いものがある」と、身近な装飾古墳をモチーフにした。しばらくは落選が続いた。装飾古墳にこだわることに「やめたら」と周りから言われたが、開き直って描き続けた。

「『手応えのあるもの』が好きで、装飾古墳の岩肌の風合いや色合いにひかれる。抽象的な文様には芸術性がある」。これまでは実在する文様を描いてきたが、



小材啓治さんの油彩「馬と兵士のいる古墳」
(130・3号×162・0号)

「今回は古代人になったつもりで、イメージを膨らませた」という。

中学の美術教師を50歳で退き、画業に専念した。「絵は業。まだ山の裾野に入ったところ」と言う。装飾古墳の追求は続く。
(中原功一朗)

2月4日（土）～5日（日）井上武先生による研修会

示現会本部井上武常務理事による、示現会本展出品作品の研修会を開催。初日は井上先生から熊本支部員の作品1点1点に対し、検討修正すべき個所について指摘があった。2日目はその指摘に基づき、各人が修正を行い、さらなる検討課題を頂いた。（写真は当日の研修会の様子）



3月11日（土）本展出品作品研修会（最終回）

熊本支部員の1年の成果としての作品の最後の一笔のために、小材支部長より意見をもらった。この時点で出品OKの人は、そのまま搬出につながる。課題の残る人は出荷前日まで悪戦苦闘し、仕上げに努めた。

3月19日（日）作品出荷

支部長宅に集められた熊本支部員のすべての出品作がこの日熊本から東京に搬送された。

4月5日（水）～4月17日（月）第70回示現会展

熊本支部からも12名が上京し、会場で展示された自作や支部員の作品を探しながら、思案に耽った。熊本支部からは、小笠原恵子さんが奨励賞をとり、準会員に川口茂氏、会友に藤井晃子さん、甲斐敬彦氏の二人が昇格した。また会場では本部の先生から自作に対する貴重なアドバイスを受けた。今年は70回展という節目の年で、祝賀会には日展系洋画団体の重鎮の方々が来賓として出席されていた。東光会・佐藤哲氏は来賓代表挨拶の中でこう述べられた。「どの洋画団体も少子高齢化の大変な時代に直面している。これに挫けず絵画制作に頑張ろう」と激をとばされたのが印象深かった。

写真1. 表彰式場での熊本支部員の記念写真



写真2. 祝賀会当日の一コマ、左から、若杉、佐藤先生、星子、赤塚



4月9日（日）本展審査の状況報告・着衣モデル研修（1）

1) 今年の示現会本展審査の状況など（支部長）

一般・会友：技術的には未熟でも、エスプリのある作品が欲しい。

準会員：会の中で一番頑張っているという感じ。作品の密度が濃い。

雑感：絵の良し悪しは、「何を描くのか、何を描きたいのか、何に感動したのか」で決まる。まず感動、そして技法、技術が来る。普段から目と心を磨きエスプリを高めることが大事。創作とは、見たままの色ではなく「自分の色で描く」こと。写真は無機的な機械の生み出すもの。人間の心眼とは異なる。特に遠近や明暗のコントラストが強くなる。留意すべきである。絵は足で描く。立って描き、絶えず離れてみる習慣をつける。小品を拡大しても大作にはならない。これは空間感に無理が生じ、色面の面積による色の強さに違いが出てくる事による。画家は孤独と言われるが、これは一人で思考する時間と空間を持つという事である。絵がうまくなるという事は、手慣れてきたという事で危険でもある。上達したら下手に描き（なかなか難しいが）、面白い秀作を作ること。

2) 着衣モデルによる研修会（第1回目）

示現会熊本展の中止に伴い、白いワンピースの若い女性を3回にわたって描くことになった。1回だけの着衣モデルは毎年実施してきたが、3回三日（3カ月）にわたる着衣モデルは今年が初めてと思われる。この日は第1回目、誠実そうで好感の持てるモデルさんに来てもらい描く意欲が高まった。

5月14日（日）着衣モデル研修（第2回目）

前月のモデルさんに同一の座りポーズを取ってもらった。但し、第1回目に使った粗末なパイプ椅子をピアノ用の黒光りする椅子に取り換え、本も軽量のパンフレットに変えた。さらに体の線を出してもらうため、演歌歌手の天童よしみのなだぶだぶのワンピースをベルトで引き締めてもらった。第1回目より雰囲気のある人物像が描けそうだった。

6月11日（日）着衣モデル研修（第3回目）

第1回、2回、3回とも各2時間の研修であった。F12のキャンバスを使っても中々骨の折れる作業だった。時間不足を感じた。しかし普段人物を描かない人にとっては退屈だったようだ。9月以降は1回1日だけのポーズとなった。

（添付はその時の作品の1例、F12）



以上

お知らせ

2017年（平成29年）示現会熊本展・示現会熊本支部公募展について

熊本地震による熊本県立美術館の修復作業などにより会場確保が困難なため、両展覧会は中止しております。2018年（平成30年）は開催いたします。示現会熊本支部公募展に出品予定の方は早めの準備をお願いします。